

第 17 回 柳瀬川・空堀川流域連絡会 (第 6 期)
(現地調査)

日 時 平成 24 年 10 月 29 日(月)12 時 10 分～16 時 00 分

集合場所 西武池袋線 清瀬駅 12 時 10 分集合

調査箇所 柳瀬川：金山調節池

↓

空堀川：御成橋付近

↓

庚申橋調節池

↓

芝中調節池

↓

意見交換会 (東大和市第 10 会議室)

出席者 都民委員 14 名

行政委員 8 名

事務局等 3 名

配布資料 ①次第 ②多摩随一のビオトープ 柳瀬川・金山調節池の環境
③庚申橋調節池平面図 ④芝中調節池平面図 ⑤池と水路の状況(御成橋上流左岸)
⑥植樹予定箇所(御成橋上流右岸) ⑦第 16 回 柳瀬川・空堀川流域連絡会 議事録

【 現地調査 】

①柳瀬川：金山調節池



金山調節池内の池や草地



「清瀬の自然を守る会」からの説明

②空堀川：御成橋付近



御成橋上流左岸のワンド(左)および上流右岸の植樹検討箇所(右)を調査

③庚申橋調節池



新庚申橋下流付近(左)および新丸山二の橋と新丸山一の橋間の現河川との合流地点(右)を調査

④芝中調節池



芝中調節池の池底に降りて多目的広場付近を調査

●意見交換会

【 議事要旨 】

- (団体委員) 本日見学した金山調節池と芝中調節池を比較すると悲しい気持ちになってくる。あまりの違いがある。
- (都民委員) (以前提示した案を基に)遊水池的な機能が必要。水の確保を考えていかなければならない。地下水での供給も考えられるが、一定量以上の地下水をくみ上げる場合には、400m以上掘らないといけない。1本掘るのに費用が4~5千万円程度掛かり、ポンプ等の稼働費用も掛かってしまう。近隣団地の開発当時の下水道施設等について、一部でも残っているものがあれば、雨水貯留施設として活用できないか。
- (行政委員) 基本的に流域下水道とした時点で壊しているものと思われる。
- (行政委員) 一部、学校で雨水貯留を行っているところがある。
- (団体委員) 第4中学校の下に施設があるのではないか。
- (行政委員) 基本的に浸透枳で対応しており、貯留というよりも浸透させている。浸透しきれない水が空堀川に流れている状況である。大水の時などには、この余剰水が出てくる。位置については、芝中調節池よりも下流である。
- (都民委員) 第5期の前期で、この箇所の計画を行っている。なだらかな斜面を整備していく案が出されている。水辺と緑を生かしており、委員の案に近いものとなっている。水の確保についての議論までは出ていなかったため、その確保の手立てを考えていく必要がある。
- (事務局) 第4期のもので、旧川を礫で埋めて、溜まった水を新しい河道に流すイメージである。なだらかな斜面と遊歩道を確保する形式を考えていたようです。
- (都民委員) 渇水期について、水の確保が難しいのではないか。
- (事務局) 夏場だから渇水というわけではない。夏場でも降雨があると、川の水位が高くなるが、すぐに水がなくなってしまう。雨の少ない冬場にも渇水の時期はあります。
- (都民委員) (以前提示した案を基に)ソーラーパネルからの動力でばっ気していくということを考えている。小規模でもよいから、水を動かす必要がある。
- (都民委員) ソーラーパネルでの事例は、あるようである。電気を使って地下から汲み上げるとなると大事となる。
- (行政委員) 行政では、雨水に関しては地下浸透という方向で進めている。大雨時には、川に雨が行くが、通常は雨が河川に行かないようにしている。地下水位が低い地域であり、湧水が期待できないので、普段は水がないのが自然な状況となっている。確保のためには、地下水の汲み上げや貯留などの対策が必要であり、難しい。
- (都民委員) 流域下水道の整備により、河川に流れる水はきれいになったが、水量が大幅に減少している。使用している地域で水が循環するようなシステムを作っていく必要がある。現在は、すべての水が下流の清瀬で処理されてしまっている。
- (団体委員) 現在の広域下水道システムの問題である。流域各市で使用する上水が全部、下水道を経て下流の清瀬の水再生センターで処理されており、使用している地域での水循環が行われていない状況である。使用した地域での水循環が行われて、河川に水が流れるようになればいい。広域集中型ではな

く小規模分散型、自立型の処理による循環システムへの転換が必要である。このような自立型の技術革新によって川は生きてくる。そのようなことに関しては、河川部局だけでは限界がある。都市整備全体で考えていく必要があるのではないか。

(都民委員) 御成橋周辺計画でもあったが、予算がないということで議論が前に進まないというむなしい感じがある。予算の問題について、どうしていけるかの議論が必要である。

(都民委員) 予算の問題に関しては、どの部局が出すのかという議論にもなってくる。

(都民委員) この地域での救いは分流式であることである。河川整備において少しずつでも改善していき、雨水をどこで貯めるかという工夫を行っていく必要がある。大規模火災においても、電気が停電したら水が有効に使えない。防火水槽についても少ない量である。雨水貯留での対応が有効である。

(都民委員) 防災的にどの程度の量が必要なのか根拠があれば、これについての議論ができる。

(都民委員) 河道内だけでなく河道外での施設の貯留も必要ではないか。

(事務局) 金山調節池の場合には、民間ボランティアの力が重要となっている。上流の施設においても整備した後は、官だけでなくボランティアの力が必要である。金山調節池の例を見て、ボランティアの育成等についても考えていかなければいけない。

(団体委員) 実際に管理していると、雑木や水辺の管理に大変な手間が掛かる。相当な覚悟を持って対応していかないとできることではない。

(事務局) ワークショップが結成されて 10 年くらい経過しており、その前 10 年くらいは何らかの形で対応してきている。

(団体委員) 協働で行わないとできないので、できるだけ早くから参画してもらうことが大事である。ボランティア団体については、行政においても育てていくような方向で考えて欲しい。民間団体でも継承し、増やしていかなければならない。団体を育てることも協働していかなければならない。

(事務局) それでは、時間になりました。今日、見学し感じたことを、今後の流域連絡会で活用して頂ければと思っています。本日はありがとうございました。次回開催日程に関しましては、後日連絡を申し上げます。



東大和市第 10 会議室にて意見交換